第４回 住民がつくるおしゃれなまち研究会 議事概要

日　時：2018 年 2 月 28 日（水）15:00～17:00
場　所：戸田市役所５階　501 会議室
出席者：【委　員】卯月盛夫 座長（早稲田大学）、福井恒明 委員（法政大学）、梶山浩 委員（戸田市）、石川義憲 委員（日本都市センター）
【戸田市】神保国男 戸田市長、戸田市 PT
【事務局】川上担当課長、長谷川副主幹（戸田市）
池田副室長、瀧澤研究員、千葉研究員、内藤研究員補（日本都市センター）

議事要旨
・福井委員による問題提起
・調査研究に関する議論

１　福井委員による問題提起

（１）はじめに（おしゃれについて）

・華やかな日（ハレ）とそうじゃない日（ケ）が日常の中に入ってくるというのがおしゃれなのではないか。
・綺麗なシーンや事物だけではおしゃれにならない。生活の中にうまく組み込んでいくことが、おしゃれなライフスタイルにつながる。
・戸田市の強みと弱みを把握することが重要である。どのように強みや弱みを生かしたらおしゃれになるかを考えて行けばよいのではないか。

（２）戸田市の強み

・荒川、漕艇場、彩湖・道満グリーンパークという東京にはない非常に大きな空間が戸田市のイメージを作り上げている。分かりやすい空間構成と、そこで何をするか想像しやすいという意味では、戸田市のシンボルといえる。
・それぞれの空間が個別に完結しており、相互につながってはいないため、観光スポットのようになってしまっている。連続性を持たせることで、市民の日常に一部にできればと考えている。
・上記の空間は、あまり作り込まずに使い手にゆだねるのも一つの方法である。こういった使い方ができるという、発信の仕方を打ち出していくことが、これらの空間を生かすことにつながるのではないか。
・ボール公園は、多くの人が集まり賑わっていた。ボール公園のような、まちなかで何かしたいと思っている市民の受け皿となる空間を作っていくと、より市民にとって過ごしやすくなる。さらにおしゃれの要素も入る余地がある。

（３）戸田市の弱み

・市街地のパブリックスペース、特に公園・道路の質や量に改善の余地があるように感じた。
・道路は、単なる空間ではなく場所になっているかが問題である。活動の場所や居場所になって

いるかという点で見れば、まだまだ色々なことができるのではないか。
・公共事業だけで改善をしていくのではなく、民間とも連携していくことが必要である。公共事業で用意する空間と、民間が活動できる場所を提供できるよう、戦略的に考えていく。
・都会でないということは悪いことではない。都市の成り立ちが違うからである。城下町出自で、建て詰まって近代化した種類のまちと、農地が郊外化してできたまちの違いであるため、都会らしさを求めるのは違う。

（4）まとめ（おしゃれなライフスタイルに向けて）

・おしゃれを提供しようとしている人をどれだけサポートしてあげられるかが、おしゃれ政策の要になっていると考えられる。提供してくれる方をいかに見つけ出し、口コミや SNS でだんだんと周知していくというのが郊外のライフスタイルのあり方になるのではないか。
・風景と空間は前後につながっているため、一か所だけではなく、近隣を含めた生活の時空間をデザインしていく必要がある。
・大阪や広島の現地調査を実施し、スポット一つではおしゃれにならないという印象を受けた。一店舗に対して、その横に何らかの違うアクティビティーをどう配置したらつながっていくのかを考えると良いのではないか。まち並みをつくるのではなく、自転車や徒歩で行ける範囲内にぽつぽつとスポットが散在しているというのも戦略の一つである。

2　戸田市 PT との意見交換

・戸田市は、平坦でありながらも荒川、漕艇場、彩湖・道満グリーンパークといった特徴的な場所が多いので、気球を飛ばして上空から戸田市を見るというイベントをしてみたいと思った。夜に実施すれば、東京の夜景を見ることもできる。
・市街地でのイベントをするならば、インターロッキングが整備されている北戸田駅付近の笹目川で、民間事業者と連携して実施したら、おしゃれになると思う。
・漕艇場は一周約 5km であり、ウォーキングやランニングスポットして市民にも利用されている。しかし、北側が少し狭い点がネックになっている。
・漕艇場やその周辺は飲食できる場所がないため、運動や犬の散歩といった目的がないと行かない。カフェなど人が集まるような魅力ある場所や、朝市のようなイベントを実施することで、人を集めるきっかけをつくれたらと考えている。
・漕艇場は夕日がとても綺麗で、夕日を見るために近くのマンションを購入した住民もいるほどである。しかし、漕艇場近くの高台広場は鬱蒼としたイメージもあり、市民はあまり身近に感じてはいない。
・オランダでは、ハウスボートといった様々な機能を兼ね備えたボートがある。戸田でも、マーケットの機能や災害時に自立的に動く機能を持たせたボートの利用があっても良いのではないか。
・漕艇場では、ナックルフォアのボート体験教室があり、市民がボートに乗る機会を設けている。しかし、そのような機会以外で、市民が気軽に漕艇場でボートに乗ることはできない。
・桜の季節に笹目川でボートに乗っての花見を計画するのはどうか。一般的な花見と違い、場所

取りの必要がないため、利用者は多いのではないか。

・笹目川のプロムナードは、最近開発が進んで建物ができているが、マンションや病院が多く、飲食店などが入るような建物は建たない。なぜかと考えてみたが、水辺から建物までの距離が遠いのが問題なのではないか。日本の建物は、水辺に対して背を向けてつくられていることが多いと感じる。

・彩湖・道満グリーンパークの集客力は、土日はかなりあるが、平日はそこまで人が来るわけではない。お店を建てても撤退されてしまうかもしれないが、キッチンカーぐらいであれば採算が取れるのではないか。現在もキッチンカーは、土日に数台来ているが、その数が増えたらさらに賑やかになる。

・戸田で「遊ぶ」というキーワードが、おしゃれなライフスタイルにつながるのではないか。子どもだけでなく、大人が遊ぶということが重要である。

3　今後の予定

・第 5 回研究会は、2018 年 3 月 20 日に開催予定である。田中委員に問題提起をしていただき、意見交換を行うほか、戸田市民向けアンケートの結果を報告する。

（文責：日本都市センター）